

唐丹の歴史いろいろ(十二)

大船渡市吉浜

木村 正 継



保八年)四十四才の時に氣仙・本吉地方などを巡検して唐丹にも来ています。

吉村の父は、二代藩主忠宗の子供で伊達肥前宗房、母は片倉小十郎景長の

り渡したと奥山良風覚書に
しるされ、仙台藩中興の英
主といわれています。

お節・喜右衛門の事件が
起る前の年の十二月二十四
日七十二才で亡くなってい
ます。(年令は数え年、以
下同じ)

仙台藩主の氣仙巡視は、
初代政宗・二代忠宗・五代
吉村・七代重村・十三代

巻の内、上巻が見つかって
いないので、中巻(二月九
日)から始まっています。

氣仙分のあらずじは
二月九日 吉浜村と越喜
来村の間にある大六山で、
氣仙郡内から三、七〇〇人
程の勢子(内勢子用鉄砲
二五〇挺)を集めて大規模
な鹿狩りを行なった。

二月十日 休息。

き返し、肝入市兵衛方に御
泊り。

二月十五日 上有住村、
二月十六日 今泉村御出駕
途中世田米村浄福寺へ立寄
る。大六山での狩りの獲物は
五拾五疋の鹿(内牡鹿十六
牝鹿三十八疋)狼一疋だった。
以下唐丹村に關係が深い分
の詳細は次の通りです。

頁が許す分を御紹介しま
す。

一 兼て鍬台峠をもつての
外の難所とうけたまわ
り候故その心得にて、
いづれも歩行叶い難た
き所は馬上の積りに申
付出候処、承り及び候
よりは難所欠所少く
道も左程悪所はこれ無
く候処、坂多く捨石大
分これ有り候て歩行不
自由成と申迄にて候。

仙台藩主五代吉村の氣仙巡視(一)

前回まで「お節・喜右衛門」の駆け落ち事件をご紹介しましたが、そのお姫様の父と噂されるのが五代藩主吉村です。

(永井村史によれば、お節は、吉村が牡鹿半島で鹿狩りをした四十七才の時に土地の娘に生ませた御落胤だといわれ、富田家で養育された、富田家は伊達家永代着座・二番座で桃生郡小野二千石の領主であった。)

吉村は、一七二三年(享

娘阿松(貞樹院)の嫡男として一六八〇年六月二十八日に黒川郡宮床館に生まれ一六九五年十二月に世子となり、一七〇三年二十三歳の時に五代藩主陸奥守に任ぜられています。

慶邦の五人が実施していましたが、吉村の場合は、一行六百十九人と大人数だったことや、各地で大規模な鹿狩りを行っていることなど氣仙郡内の行動が詳しく記録されています。(境目並濱方巡見記・住田町佐々木鶴吉さん所蔵・訳文は、陸前高田市史に全文掲載)

この記録は、上・中・下

二月十一日 綾里村で大規模な狩りを行なった。
二月十二日 唐丹村に御出駕、御宿市兵衛方。
二月十三日 唐丹村御滞在、御宿市兵衛に御歌二首を賜る。
二月十四日 南部境目番所を視察し、小白浜海岸を散歩し五葉山を眺め根白真称寺で御昼食、越喜来村に引

去りながら無数の難所と申すにはこれ無く乗興も叶い候荷物等もこの所は大形牛にて通用申候。
鍬台峠の大山に荒川峠くぬき峠共いう桜峠この三ヶ所の大山難所